

1. 研究目的

私の地元である佐賀県では人口流出が加速し、過疎化、少子高齢化が著しい。元来、県の知名度も低く、近年開通した九州新幹線のストロー効果により、観光客も減少し、活気が無くなっている。

この現状をデザインの力で解決できないだろうかと考えた。そこで、佐賀県の魅力を他県の人々に知ってもらうために、私の育った町であり、イカで有名な観光地でもある呼子町に注目して、観光情報媒体を制作する事にした。

2. 調査内容(事前調査)

まず調査として呼子町が属する唐津市観光協会から観光情報媒体を取り寄せた。情報の殆どは唐津市全体と広範囲なため、呼子町の情報があまり載っていなかった。呼子の観光ガイドマップもあったが、古い写真しか使われておらず、レイアウトや配色も複雑で解りにくい物となっていた。

次にパンフレットに掲載されている観光地に実際に外向き撮影を行った。呼子の魅力が伝わるように雰囲気重視して撮影した。

最後に呼子市役所の産業課の方々に呼子の観光についてインタビューを行った。町が現在最も力を入れているのが「呼子の朝市」。観光客は殆どが福岡県民で、全体的に若干減少傾向であった。

また、隣の町は棚田の写真が有名になって観光客が劇的に増えた。などの情報を知る事ができた。

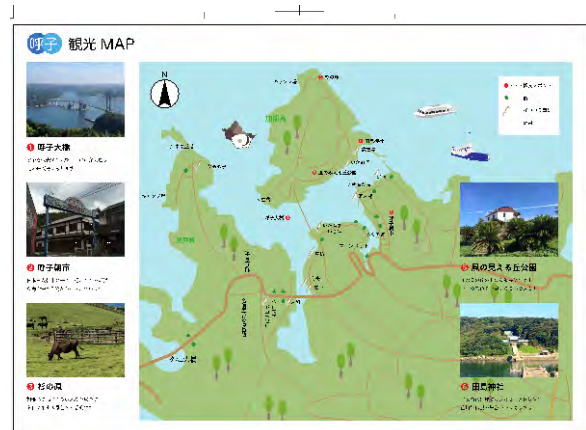
3. コンセプトおよびアイデア展開

パンフレットのコンセプトは「自然・文化・風景」である。呼子には他県に誇れる素晴らしい自然や文化がある。それを写真に納めて紹介することが呼子の魅力の発信に繋がると考えた。また、町が今一番力を入れている「呼子の朝市」は、日本三大朝市の一つでもあるので、特に朝市をピックアップして紹介しようと考えた。観光情報誌の形状は、手に取りやすさと、読みやすさを考えて、A4 サイズの用紙を三つ折りリーフレットタイプにした。ターゲットは県外の、とくに20～30代の男女。九州への旅行を考えている人たちとした。

まず最初に試作品を制作した。表紙には■■の写真を配置し、裏面には地図、扉には朝市の紹介、中面は写真を配置し、一面を観光スポットの紹介に使った。

4. 最終提案(作品)

試作品を育英祭で展示したが、パンフレットを手にとってくれる人があまり居なかった。人の目を引くようなデザインがされていないこと、呼子名物であるイカにふれていないことが原因と考えられた。加えて、観光マップが無い、情報がうまく整理されていない、などがある。それらをふまえて、中面は観光マップにして、観光スポットの紹介をマップと写真の両方で行う形にした。扉の部分は、朝市の紹介と同時に、イカについてのコラムを設けた。表紙はインパクトを重視して全面に呼子町のシンボルである呼子大橋を配置した。



5. 今後の発展

今まで呼子の観光情報を掲載したリーフレットは存在しなかった。観光マップはあったが写真が古かったので、いまひとつ呼子のイメージが伝わりにくかった。新しい写真を使ったリーフレットを作れば呼子の魅力はより鮮明に伝わる。

九州に行ってみたい人、興味がある人が、リーフレットを手にしてくれれば呼子の良さをアピールする事ができ、呼子に足を運んでもらうきっかけとなる事だろう。

6. 参考文献

唐津市観光協会 呼子周辺地図